

障がい学生支援センターだより

誰もがいきいきと学べる大学

山形大学 障がい学生支援センターFD 研修会開催のご報告

障がい学生支援センターでは、支援センター設立以来、年に1回、障がい学生支援に関する理解啓発を目的とした研修会を開催しています。昨年度はコロナ禍のため開催を断念いたしました。今年度はオンライン形式で開催いたしました！今年度の研修会では、「**発達障がいのある学生への指導の実際**」をテーマにしました。

◆ 基調講演:「発達障がい学生への合理的配慮と指導上のポイント」(京都大学学生総合支援センター村田淳准教授)

まず障がい学生への教育・支援を考える上で重要な「合理的配慮」の考え方を整理しました。合理的配慮の原語は“reasonable accommodation”であり、**社会側のバリア、障壁を変更・調整**することを意味しています。つまり、大学において、学生の「教育を受ける権利」が、障がい故に侵害されているのであれば、その状況を大学が責任を持って、**組織的、環境的に見直し、調整していこう**ということであると説明がありました。

続いて、発達障がい学生の特性の理解と、それぞれの障がいに応じた支援例について紹介がありました。**発達障がいは「脳の機能障がい」**であり、見た目ではわかりにくく、

本人も気づかず入学後の不適応によりわかることがあること、環境要因によっても困難さの表れ方が異なるため**非常に個別性が高い**こと、そして本人自身が自分の困り感や要望を認識し、それを表明すること自体が障がい故に難しいことの説明がなされました。

支援・指導上のポイントとして、1)彼らが何に困り、躓いているのか、**どういう方法に変更・調整すれば安心して学べるのかを一緒に模索すること**、2)**達成すべき目的・目標と手段を切り分けて考え**、「目的達成のためにどういった方法が彼らにとって望ましいか」という視点で**柔軟に考えることが基本的事項**としてあげられました。さらに具体的には、非明示的なメッセージ(暗黙の了解)を避け、**当たり前と思うことでも具体的に明示し、作業等の枠組み・見通しを持たせること(構造化)**などが紹介されました。

◆ 話題提供: これまでの発達障がいのある学生への指導経験(本学の3名の先生方から)

1つめの事例では、学生本人が障がいを周囲に開示し、理解を得ながらゼミ活動が行えたこと、そして当初は当該学生のために実施していた**情報の視覚化(連絡を全てメールで行う)**が他の学生にとってもメリットになったことが印象的でした。2つめの事例は、本人の強いこだわりがあり、周りとのズレが生じやすい学生に対し、学生の特性や状況に応じて、まずは**安心感を与え、具体的に指示しながら、その都度最善の方法を模索し、個別に対応**いただいたケースでした。行き過ぎた対応でなかったかなど、教員としての葛藤についても説明がありました。丁寧な対話と対応のおかげで当該学生は最後まで乗り切り卒業できたと思います。そして3つめの事例では、意思疎通の難しさ(言外の意味が取れない、字句通りの理解)や想像力の乏しさ、衝動性のある学生のケースを紹介いただきました。具体的な指導方法として、**卒研のゴールまでの作業等を細分化し、1つ1つ指示したり、簡潔にかつ具体的に文書で提示したり**といった様子が紹介されました。さらにこのケースでは、就職活動における本人・保護者への対応として、指導教員を中心に関係教職員がチームで相談しながら実施したことが説明されました。

研修会後のアンケートでは、95%以上の参加者から「研修会の内容がよかった」「発達障がい学生への合理的配慮について理解が深まった」との回答が得られ、有意義な機会となったことがうかがえました。

障がい学生への合理的配慮は、学生・関係する先生方・職員の方々との**不断の対話が不可欠**です。後期の配慮依頼文書が通知されていると思いますので、改めてご熟読いただけますと幸いです。**対応の難しさや不明点があれば、学生との話し合いを設けますので、遠慮なく支援センターへご連絡下さい!** 何とぞよろしくお願い申し上げます!



▲ 講演する村田先生

YU ハートサポーター（ハトサポ）の活動紹介

2021年6月26日(土)、オンラインにて行われた第2回 YU-SDGs 学生シンポジウムにおいて、「山形大学×SDGs×障がい学生支援」をテーマに、ハトサポ代表2名がハトサポの活動紹介を行いました！

ハトサポ活動が始まった経緯や、主な支援活動(障がい学生への授業支援、間接的支援)の説明を行い、ハトサポ活動は、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」と目標10「人や国の不平等をなくそう」につながることを発表しました。

また今回のシンポジウムでは、「聴覚障がい」もテーマに加え、「聴覚障がいを自分ごととして捉える」ことを目的としました。そこで、いつも養成講座でお世話になっている聴覚障がい当事者の中村さんを特別ゲストとしてお招きし、「大学での支援利用経験」や、「社会での暮らしや就労している中で感じること、困難さ」などをお話いただき、さらに、周りにどう寄り添ってもらうといいか、参加者へのメッセージをいただきました。

最後に、チャット機能等で活発な質疑応答が行われ、開催後のアンケートでは、回答者全員から「とても良かった!」と回答を得るなど、大成功に終わりました!

聴覚障がい当事者の中村さんへの文字通訳支援は、なんとハトサポが担当! ハトサポ大活躍のシンポジウムでした!(パチパチ) シンポジウムの様子は、YU-SDGs チャンネルで配信中です!!



▲ 活動紹介をするハトサポの野口さんと新田さん

SDGsとハトサポによる支援活動



障がい学生への
十分な教育保障



対等な関わり合いを
とおした
人間的成長

障がい学生支援センター 新体制のご紹介

今年3月、冨樫整先生が退官されたため、新たに牧野直彦(まきの・なおひこ)先生が、保健管理センター長に就任され、障がい学生支援センター長もご兼務いただくことになりました!

新体制となった障がい学生支援センターのメンバーを改めてご紹介いたします!



▲ 牧野直彦 センター長

本年4月に、障がい学生支援センター長(兼保健管理センター所長)として医学部より赴任いたしました。平成4年に山形大学を卒業し、以来30年ほど消化器内科という「お腹の病気」を対象に仕事をしています。私は消化器臓器の中でも胆道、膵臓というマイナーな臓器を専門領域として、癌研究や内視鏡治療、新規医療機器開発を担当してきました。障がい学生支援はさらなる充実が求められている領域です。心新たに努めて参りますのでよろしくご願いし申し上げます。



▲ 有海 准教授

今年で6年目になりました。障がい学生の学びのため、今後ともご指導・ご支援を何卒宜しくお願いいたします!



▲ 石山専門職員

4月に異動した石山です。保育所業務が主担当でセンター業務と兼任中。センターの立ち上げ時に学生課として携わっておりご縁を感じます。宜しくお願いします!



▲ 直島 専門職員

事務担当4年目の直島です。多様な障がい学生に対して、深い理解を持ち、支援を続けていきたいと思っております。宜しくお願いします!

新体制で、心新たに 障がい学生への支援を進めて参りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます!!

(イラスト作成: 実習生(筑波技術大学大学院2年生) 松谷朋美さん)

障がい学生支援センター

TEL: 023-628-4922 FAX: 023-628-4485

E-mail: yu-shougai-shien@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ホームページ URL: <http://www.yamagata-u.ac.jp/jp/scsd/>

支援センター
HPのURLは、
右のコードから
読み取れます

